

北九州学術研究都市フォーラム

北九州発 テクノロジーの挑戦～ポストコロナ社会を拓く～

《参加申込》ホームページからお申し込みください。

●申込期間：令和2年10月19日(月)17時まで

ホームページ <https://www.ksrp.or.jp/forum2020/>



●参加にあたっての諸注意

■オンラインでの参加方法

本イベントはZoom（無料アプリ）にて開催いたします。参加用ログインURLは、当日開始前までに申込時のメールアドレス宛にお送りします。開始20分前よりログイン可能です。セットアップの所要時間は2分ほどです。

●参加に必要なもの

・パソコン、スマートフォンまたはタブレットと、インターネット環境

●講演資料の配布

・講師に了解を得た場合には資料をPDFで配布いたしますが、参加者のみのご利用に限定いたします。他の方への転送、WEBへの掲載などは固く禁じます。

●注意事項

・インターネットの回線状態などにより、画像や音声がかかる場合があります。また、状況によっては講演を中断し、再接続して再開する場合があります。予めご了承ください。

■会議場での参加について（学研都市3大学研究交流会）

来場でのご参加については、国等の指針に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に関する対策を行いますので、ご協力をお願いいたします。

●対策の内容

- ・人と人との距離を十分に確保できる配席とします。
- ・入場時に非接触体温計での検温を行い、発熱等の症状がある方の参加はご遠慮いただきます。
- ・特段の事情がない限り、原則、マスクの着用をお願いします。また、こまめな消毒や手洗いなど「新しい生活様式」に基づく行動をお願いします。
- ・入退場時や休憩時間など、いわゆる三密（密集・密接・密閉）の環境を作らないよう徹底します。
- ・日頃から体調管理を徹底し、イベント当日、以下に該当する方は参加を辞退してください。

- ①発熱やのどの痛み、咳が長引く、強い倦怠感などの症状がある場合
- ②過去14日以内に感染が継続拡大している国・地域への訪問歴がある場合
- ③新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者であることが判明した場合
- ④過去14日以内に入国制限のある国・地域からの渡航者・在住者との濃厚接触がある場合

※やむを得ない事情でオンライン配信のみに変更させていただく場合もございます。ご案内が開催直前になる場合もございますが、予めご了承ください。

■講演内容のアーカイブ動画について

参加申込いただいたプログラムの講演動画をフォーラム開催後、参加申込者限定で公開予定です。

個人情報の取り扱いについて

お申込時に記載された個人情報は、本イベントの実施・運営に関するものにのみ使用します。

北九州学術研究都市会議場

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-3

お問い合わせ

(公財)北九州産業学術推進機構 総務企画部 企画広報課

TEL.093-695-3111
forum2020@ksrp.or.jp



北九州学術研究都市フォーラム

北九州発 テクノロジーの挑戦

～ポストコロナ社会を拓く～

参加無料

日時

2020年10月22日(木) 23日(金)

開催方法

オンライン（Zoom ウェビナー）先着1,000名まで
学研都市3大学研究交流会は
学研都市内の会議場にて聴講可（先着100名まで）

参加申込

ホームページからお申し込みください

<https://www.ksrp.or.jp/forum2020/>



北九州発 テクノロジーの挑戦 ～ポストコロナ社会を拓く～



Day 1 10月22日 日 木 FORUM's PROGRAM

●開会挨拶 11:00～11:10

●基調講演① 11:10～12:00

ポストコロナの情報社会 ーデジタル化による社会と考え方の変容

情報社会として社会のデジタル化について考察しポストコロナを考える。デジタル化とは何か？について三つの基本となる考え方を示しその影響について解説を行う。コロナ禍での社会の変容を世代別に考察しその基盤としての社会と人々の考え方の変容について講演する。また、技術的基盤のデジタル化による変容について事例を交えて将来方向性を示し、e-PORT 構想の果たした役割について考察しポストコロナ後の情報社会を俯瞰する。

●講演者
中央大学名誉教授 **大橋 正和 氏**



●PROFILE
中央大学名誉教授、情報社会学会会長、一般財団法人日本建設情報総合センター理事、一般財団法人港湾空港建設技術サービスセンター理事、中央大学総合政策学部教授(1993年～2019年)、学部長(2003年～2007年)、常任理事(2017年～2019年)、北九州市「北九州e-PORT協議会」会長(2002年～2015年)、「北九州e-PORT推進機構」機構長(2015年～2018年)、「北九州e-PORTパートナー」顧問(2018年～現在)

オンライン

●基調講演② 13:00～13:50

ポストコロナのニューノーマル 日本はチャンスに変えられるか？

2020年4月、米国ではマイクロソフトなどGAFAMが事業を伸長させ、5社の時価総額合計は東証1部の総額を抜いた。AIの首都シアトルではアマゾンが利益を全てコロナ対策に使うと宣言し、AI開発などのスタートアップへの投資は増加傾向だ。コロナ後はゲームチェンジャー、競争環境やルールも変わる。イノベーションで周回遅れだった日本企業にとっては、最初で最後の絶好のチャンスかもしれない。賢人たちのアドバイスや先行事例も踏まえ、今後日本企業と研究機関が目指すべき方向を共に考える。

●講演者
Innovation Finders Capital
Founder **江藤 哲郎 氏**



Photo © Naonori Kohira

●PROFILE
アスキー、マイクロソフト、電通を経て、2015年米国ワシントン州にInnovation Finders Capitalを設立。AIなどの最先端スタートアップを日本企業と繋げるAIミートアップを主催。2019年よりSWAN Venture Group パートナー兼任。著書「AIゲームチェンジャー シリコンバレーの次はシアトルだ」日経BP刊。

●学研都市3大学研究交流会『私たちの未来社会に貢献する AI 技術』14:00～17:20

教育や産業分野など、社会のあらゆる分野でテクノロジーを活用した変革が進んでいます。学研都市3大学から、イノベーションを加速させ、時代を切り拓くAI技術についてご紹介します。

会議場 / オンライン

●14:00～14:50

●早稲田大学 DXへの取組事例から見える 企業戦略とAI展望

DX(デジタル・トランスフォーメーション)は単なるICT化ではなく、企業にとっての価値提供手段を抜本的に変えるものであり、企業文化をも変革すると言われています。しかし、この意味でのDXで成果を挙げている例は、世界的にみてもそれほど多くありません。本講演では、企業がDXを推進する上で重要な経営的視点と、DXを実現する上で必要な工学的視点の両面から、製造業におけるDXについて議論します。また、DXへの本格的な取り組みが、危機に対してレジリエントな企業体質の構築に役立つことを確認します。

●講演者
PTCジャパン株式会社 ディレクターフェロー
早稲田大学IPS・北九州コンソーシアム 理事
後藤 智 氏

早稲田大学理工学術院 教授

吉江 修 氏

●15:10～16:00

●九州工業大学 AIシステムの脳型ハードウェア化 の必要性和ロボット応用

現状のAIシステムはソフトウェアベースで発展してきましたが、電力効率が悪く専用ハードウェアへの転換が望まれています。近年、世界の半導体関連機関が専用AIチップの開発を活発化させていますが、消費電力の低減は十分ではありません。本学ではニューロモルフィックAIハードウェア研究センターを中心に、AIシステムを材料工学の観点から見直す研究を進めています。当日は次世代ロボットを通じた取り組みなどを紹介します。

1 ニューロモルフィックAIハードウェア研究センターの取り組みと今後

●講演者
九州工業大学 大学院生命体工学研究科
人間知能システム工学専攻 教授・ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター長

田中 啓文 氏

2 ホームサービスロボットの知的処理とそのハードウェアアクセラレータの構築

●講演者
トヨタ自動車株式会社 未来創生センター
R-フロンティア部 要素開発G
石田 裕太郎 氏

●16:20～17:10

●北九州市立大学 AI教育にみられる子どもたちと 地域企業の挑戦

本講演では、AI教育をテーマに、子どもたちにどのような未来を魅せるかを考えるきっかけにします。グループワークは、最先端のテクノロジーを遊んで学べる教育事業「TECH PARK (テックパーク)」を展開しています。このAI授業で、子どもたちはどのような変化をみせたのか、取組事例をもとに紹介します。一方、北九州市立大学では地域企業と連携して学部1年生のインターンシップやAI教育をスタートさせました。その狙いと想いを紹介します。

1 AI教育を実践してみえてきたこと～子どもたちは、なにを学びたいのか～(仮)

●講演者
株式会社グルーヴノーツ 代表取締役会長
佐々木 久美子 氏

2 AI教育がつかなく地域企業インターンシップの紹介

●講演者
北九州市立大学国際環境工学部 教授
中武 繁寿 氏

講評 17:10～17:20 (公財)北九州産業学術推進機構 理事長 **松永 守央**

Day 2 10月23日 日 金 FORUM's PROGRAM

●身近なデジタル化の取組事例紹介 10:00～11:50

各企業が競争力維持・強化のために求められているデジタルトランスフォーメーション。本セッションでは北九州地域でデジタル化に取り組まれている3社からそれぞれの取り組みをご紹介します。【共催：北九州e-PORTパートナー】

オンライン

●10:00～10:30

5G デジタル技術を活用した 社会変革への取り組み

株式会社NTTドコモ
九州支社 法人営業部 担当課長

植松 大輔 氏

株式会社ドコモCS九州
北九州支店 法人営業部 担当

小山 潤也 氏

5G、ビッグデータ解析といった先端技術により、社会のデジタル化は大きく進化するとともに、「データによるまちづくり」が始まっていきます。ドコモのSDGs 達成に向けた北九州での取り組みをご紹介します。

●10:40～11:10

今から始めるDX、中小企業 における効果と課題

株式会社ハビクロ 常務取締役

中田 佳孝 氏

IT、IoT、AI、RPA等のデジタル技術を活用した既存事業のDX推進と新規事業創出について、当社の取り組みを事例に課題や対応策を紹介いたします。

●11:20～11:50

北九州テレワークサポートセン ターにおける支援事例について

リンクソフトウェア株式会社 代表取締役

矢野 宏之 氏

北九州市内中小企業のデジタル化支援を目的に弊社他4社で運営している北九州テレワークサポートセンターのご紹介、および同センターへ寄せられた相談の中から、実際にデジタル化に取り組まれている市内中小企業様の事例をご紹介します。



●先輩起業家が語る!『起業への挑戦が未来を創る』13:00～14:40

ベンチャー企業を立ち上げ、AIやIoTといったデジタル技術を武器に活躍する先輩起業家が、これまでの体験を基に「起業」について語ります!

オンライン

●13:00～13:45

ビジネスに重要な「掛け算の視点」

株式会社Fusic 取締役副社長 **浜崎 陽一郎 氏**

商売において大事なことは、いかに顧客に価値を提供し、その対価としてお金をもらうかです。GAFに代表される世界的企業だろうと、街のお店だろうと、規模の違いこそあれ、成功している企業は必ず「顧客への価値提供」が確立されています。私は日々、それを確立するためのヒントは「掛け算の視点」であると考えています。本講演ではその視点についてお話ししたいと思います。

●13:55～14:40

キャリアとしての起業～就職と起業の境目が無い時代～

株式会社クアンド 代表取締役 **下岡 純一郎 氏**

「起業」は長い生涯キャリアのうちにある1つの選択肢に過ぎないと思っています。企業で働く、起業する、フリーランスで活動するなどの立場に意味はなく、「何を価値として社会に生み出せる人なのか」が重要な時代。様々なキャリアを経験して感じる、これからの起業について語ります。

●生産性向上スクール～IoT・ロボット等による生産性向上の進め方～15:00～17:00

急速に変化する社会の中でフォーカスされる「生産性の向上」について、ものづくり企業に今必要とされるDXやカイゼン手法の活用、生産性向上の実践例をご紹介します!

オンライン

●15:00～15:45

第4次産業革命を活用した中小 企業の飛躍とは? ～第4次産業 革命の本質と機会・脅威～

株式会社野村総合研究所
上級コンサルタント

梶野 真弘 氏

コロナ禍の影響により、第4次産業革命への対応要求が加速。実はDXと中小企業の親和性は高く、大企業を出し抜くことも可能。第4次産業革命の本質、進め方、組織運営について、ポイントを押さえてお伝えします。

●15:55～16:35

中小製造業における生産性向上 の進め方

ものづくりテラス

代表 **林 芳樹 氏**

生産性向上を阻害する要因にはさまざまなものがあります。今回、その要因を生み出している背景を考察し、生産性向上を図るために、どのような対策が必要なのか、企業での取組事例をもとにご紹介してまいります。

●16:45～17:00

北九州市における中小ものづくり 企業の成長支援

北九州市産業経済局
産業イノベーション推進室

ロボット産業担当係長 **大庭 繁樹 氏**

北九州市は、ロボットやデジタル化など様々な新技術を活かすことで中小ものづくり企業の成長を支援します。北九州市の多くの支援策の中から、中小ものづくり企業に特にオススメのメニューを事例とともに紹介します。

●閉会挨拶 17:00～17:10